

毎週日曜発行  
2022 5/1

# こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



## みんな 子ども だった!?

25

物語を書く人はどんな子どもだったのかな?

河北新報夕刊で、ちょっとヘタレな小学生が土地の謎と向き合う「杜の都は不思議のまち」を連載中の児童文学作家佐々木ひとみさんに聞いたよ。

小学生のころは好奇心いっぱい活発な子でした。山の中の児童約40人の学校に通い、木登りや野原を走り回って遊びました。家は兼業農家で、4歳下の弟が生まれるまでひとりっ子だったせいか、思いつくと何でもや

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

佐々木ひとみさん(58歳・児童文学作家)



小学2年の時、「3人さくら探偵団」を結成しました。秘密基地でお菓子を食べたリ、ターザンごっこをしたりしました。

りたがる子でした。

「馬がほしい。馬で学校に通い、えさは校門の周りの草を食べさせる」と親にせがみ、釣りに興味を持てば、棒に糸だけ垂らして川で何時間も釣れるのを待ちました。



母には「とんぴくりん」と言われました。茨城弁でおつちよこちよいなどの意味。一方でよくぼんやりすると注意されま

# 文章ほめられ楽しさ実感

くれました。文章を書くのは苦しいけれど、認められるとうれしい。書く楽しさが芽生えました。

ささき・ひとみ 茨城県日立市出身。ほととあいつのラストラン」で2010年椋鳩十(むくはとじゅう)児童文学賞。「兄ちゃん戦争武将(ぶしよう)！」「ストーリーで楽しむ伝記 伊達政宗(だてまさむね)」など。仙台市在住(ざいじゅう)。

した。小学校の先生だった伯母は「いろいろ考えてるんだよ」と言ってくれました。その時も伯母の家のピアノの前に「弾けたら楽しそう」と想像していました。自分は考えていると分かり、認められた気がしました。

本との出会いは小学校入学前に叔父が絵本をくれたこと。図書室に本が多くあると知り、入学を心待ちにしました。名作を読み聞かせ、学級文庫に漫画を置く先生もいて楽しみは広がりました。中学2年で石川啄木の短歌の感想文で表彰され、他校に転動した先生が「面白かった」とほめて



病院勤務を経てコピーライターになり、仕事の傍ら児童文学を書き始めました。出版社への持ち込みと応募を繰り返して、10年でデビュー作「ほととあいつのラストラン」を出版しました。

諦めなかったのは、自分を育ててくれた児童文学を自分も書きたいと思ったから。本は外と自分をつなぐ魔法のドアのように広い世界に連れ出してくれます。山の中で本を楽しむにした自分のような子に知らない世界を伝えたいと思いました。みなさんには面白いと思うことがあったら、一歩踏み出してほしい。見える景色が変わります。一歩が道になって、未来につながると思います。

### 今週の注目ニュース

◇2日(月) 世界まぐるデー  
2016年のこの日、国連総会で制定されたよ。マグロは個体数が少ないのに需要が高く、世界中で乱獲されているんだ。これからはマグロが食べられるように、資源を管理して保護することが大切だね。

### かほくの紙面

- 2面 ホップ・ステップ・プログラミング
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 聞いて学べる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 かほく防災記者第2期募集